

園だより 7月

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。
みえるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存在するからです。

コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章 18節

梅雨の合間の暑い日には保護者の皆様にお手伝いをいただき設置されたプールで水遊びを満喫し、夏らしい日々も楽しんだ6月となりました。今年度も設置のお手伝いありがとうございました。

幼稚園生活の流れを年少組の子どもたちも個々のペースで心地よく感じるようになった日々。子どもたち同志の言葉の関わり合いによる様々な思いの感じ合いがこここで溢れたひと月となりました。

小さな社会で思い思いに遊ぶそのとき、子どもたちは様々に学び、吸収し、実践しています。お友だちと遊びたいとき「入れて」っていうと「いいよ」って仲間に入れるらしい。お友だちが使っているものを使いたいとき「貸して」っていうと「いいよ」って使えるらしい。まるで魔法の言葉のよう。お友だちと遊びたいけど・・・、おもちゃを使いたいけど・・・、そんな経験をしていた年少さんは周りから聞こえてくる魔法の言葉を使い合う年中長さんの真似をして「入れて」「貸して」、ドキドキしながら早速使ってみます。「いいよ」と返ってくる返事。やったあ！満足！でも、全てに「いいよ」が返ってくるわけはありません。今度はそのことになぜ？どうして？納得いかない！そんな期待はずれな思いも経験します。でも別のときに「いいよ」って言われたら、その喜びはきっと格別なものに。小さな社会ならではの「言葉」を交わし、様々な経験を通して動く心。どの様な心持ちも大切に思います。

もう一つ、子どもたちが想いを伝える言葉として「ごめんね」があります。それぞれの想いがぶつかり合い収束をするときにとても有効な「ごめんね」。とっても便利な言葉です。けれども便利すぎて本来その言葉で伝えるはずの相手を思う心が全く伴っていないことが多くあります。それはとても残念なことです。大切なことは「ごめんね」が相手を大事に思う心と共に発せられ、お互いの心が動くことだと思うのです。

ゆっくりと流れる1学期最後の穏やかなひと月、経験を通し言葉を交わしながら本当に大切な思いの感じ合い、心の動きが至極自然に成されることを願います。

暑いひと月、宜しくお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子